

科目名		両立支援科学特論	
科目責任者 永田 昌子		(両立支援科学 准教授)	
開講時期:	1年次後期	単位数:	4 単位
		時間数:	90分× 30 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>治療と仕事の両立支援を行う上での基盤となる個別課題に対する、shared decision makingに基づいたコミュニケーションや、患者の復職及び就労継続に向けた自立的行動の支援、全人的支援提供のための多職種協働・連携、企業内での適正配置の基本を理解する。主に、両立支援が求められる背景、適正配置、産業保健活動での位置づけ、疾患毎の医学的留意事項、地域資源を取り上げる。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 治療と仕事の両立支援が求められる背景と行政の動きを説明できる。 2) 産業保健活動の中で適正配置と、治療と仕事の両立支援の位置づけを説明できる。 3) 治療と仕事の両立支援のための地域資源を説明できる。 4) 安全配慮と合理的配慮の相違について説明できる。 5) 治療と仕事の両立支援の中でのシェアードデシジョンメイキングを説明できる。 6) 働くことによるQOLや治療に与える影響を説明できる。 7) 治療による経済毒性を説明できる。 8) がん治療(化学療法・放射線療法・免疫療法・外科的切除術)による仕事への影響を説明できる。 9) 職務適性評価として、心機能評価・運動対応能について説明できる。 10) 職務適性評価として、認知機能評価・構音障害評価・視機能評価について説明できる。 11) 職務適性評価として、運動障害評価について説明できる。 12) 復職および就労継続を促進する本人の心理状態と職場環境について説明できる。 13) 本人特性(高齢者・女性・ロービジョン)に応じた適正配置について説明できる。 14) 治療と仕事の両立支援提供の流れ(困りごとの整理・必要な支援のアセスメント・アプローチ・効果評価及び見直しについて説明できる。 			
● 評価方法	討議50%、発表50%で総合評価する。		
● 参考文献	事業場における治療と仕事の両立支援ガイドライン、企業・医療機関連携マニュアル(厚生労働省)、各疾患診療ガイドライン(各医学会)、シェアード・デシジョンメイキング(日本医事新報社)、がんサバイバーシップ(医歯薬出版)		

● 授業スケジュール

回	項目	内容	担当教員
1・2	両立支援の概要①	両立支援、適正配置、がん対策基本法	永田
3・4	両立支援の概要②	産業保健施策、安全配慮、合理的配慮、有害業務の理解	永田
5・6	がんサバイバーと仕事	トータルペイン、シェアドデシジョンメイキング、エンドポイント設定、QOL、経済毒性	永田
7・8	治療による影響①	化学療法、放射線療法、免疫療法、易感染性、認知機能、アピアランスケア	永田
9・10	治療による影響②	外科的切除手術、浮腫、可動域制限、ストーマ、再建術	永田
11・12	循環器疾患と仕事	心機能の評価方法、運動耐容能、ペースメーカー	永田
13・14	消化器疾患と仕事	炎症性腸疾患、摂食・嚥下機能の評価、血糖コントロール、ストーマ	永田
15・16	両立支援の実際(当事者)	10の質問、RTWSE	永田
17・18	両立支援の実際(職場)	困りごと整理シート	永田
19・20	運転適性評価	危険業務の法的要件(資格)	永田
21・22	両立支援コーディネーターのコンピテンシー	両立支援コーディネーターのコンピテンシー	永田
23・24	脳血管障害と仕事	認知機能の評価、運動障害の評価、構音障害の評価、視機能(視野・視力)の評価	永田
25・26	筋骨格系疾患と仕事	膠原病、神経難病、腰痛症、慢性疼痛	永田
27・28	本人特性と仕事	高齢者就労、女性就労、ロービジョン	永田
29・30	透析と仕事	糖尿病、腹膜透析、血液透析、栄養指導、健康日本21	永田